

＜資料 1＞ テキスト

ここに挙げたテキストは、ンパパ出身のインフォーマント、Kasuku 氏が話したものを録音し、それを起こしたものである。声調に関しては分析を加えずに、インフォーマントの発音どおりに記した。

民話「ウサギとワニとゾウ」

he kálonḡohí sabi sánakápesa dzabi ndémbú ljabí liḡwina.
 「時」 「昔」 S(7)-be 完過 「ウサギ(7)」 S(9)-be 完過 「ゾウ(9)」 S(5)-be 完過 「ワニ(5)」
 昔々、ウサギとゾウとワニがいました。

sánakápesa sadzenda kwa ananḡwina kwapwagila ána.
 「ウサギ(7)」 S(9)-「行く」単過 属(17) 「ワニ(2)」 不定形「彼に告げる」 「氏」
 ウサギはワニの所へ行ってワニに言いました。

“mwánanḡwina ḡga na makíli ḡgáti neḡga.
 「ワニ(1)」 Neg 随伴 「力(5)」 「~のように」 「私」
 「ワニさん、君には私のように力はないね。」

ne mí na makíli kúmpeta mwêḡga.”
 「私」 S(1sg)-be 現完 随伴 「力(6)」 「~以上に」 「君 pl」
 私は君より力があるよ。」

liḡwina lipwagiti,
 「ワニ(5)」 S(5)-「言う」完過
 ワニは言いました。

“mwêḡga kúba na makíli kumbeta neḡga, ḡga kúhwesikana.”
 「君 pl」 不定形 be 随伴 「力(6)」 「~以上に」 「私」 Neg 不定形「あり得る」
 「君に私よりも力があるなんて、ありえないよ。」

“mwê ḡhutána ḡtíbi ná ne, mwananḡwina ?
 「君 pl」 S(2pl)-「引っ張り合う」現希 「綱(3)」 随伴 「私」 「ワニ(1)」
 「君、私と綱引きするかい、ワニさん？」

né niló mwê makílí ga másóko ngamáha.
 「私」 S(1sg)-「見る」完現 「君 pl」 「力(6)」 属 (6) 「少し(6)」 「非常に」
 私は君の力がとても弱いことを知ってるよ」

tubéki ljobá lju kúhutana mwê ná ne”
 S(1pl)-「定める」現接 「日(5)」 属(5) 不定形「引っ張り合う」 「君 pl」 等位 「私」
 「私と君の綱引きの日を決めようじゃないか」

babékíti ljôba.
 S(3pl)-「定める」完過 「日(5)」
 彼らは(綱引きの)日を決めました。

kipítí kabe kwa anandembu.
 S(7)-「出る」完現 「再び」 属(17) 「ゾウ(2)」
 ウサギは、今度はゾウのところへ行きました。

“mwánamdembu ná népáne, mi na mákili nênga.
 「ゾウ(2)」 等位 「私」 S(1sg)-be 現完 随伴 「力(6)」 「私」
 「ゾウさんと私とだったら、私のほうが力があるよ。」

mwênga kúhutana na nane ntíbi ne mí na mákili
 「君 pl」 不定形「引っ張り合う」 等位 「私」 「綱(3)」 「私」 S(1sg)-be 現完 随伴 「力(6)」
 君と私が綱引きをしたら、私のほうが君より力があるよ」

kumpeta mwênga”
 「～以上に」 「君 pl」

ndémbú dzwapwaga “nga kúhwesikana. tubéki ljôba”
 「ゾウ(9)」 S(9)-「言う」単過 Neg 不定形「あり得る」 S(1pl)-「定める」現接 「日(5)」
 ゾウは言いました「あり得ないよ。(綱引きの)日を決めようじゃないか」

babékíti ljôba.
 S(3pl)-「定める」完過 「日(5)」
 彼らは(綱引きの)日を決めました。

sánakapesa ljobá lje héli, kipítí, kapelaki
 「ウサギ(7)」 「日(5)」 「その(5)」 「まさに」 S(7)-「出る」完現 S(7)-「渡す」完過
 いよいよその日、ウサギは行って、ワニに綱を渡しました。

ánanjwina ntíbi gôla.
 「ワニ(2)」 「綱(3)」 「その(3)」

kikelabwíkí kabe sapelaki ánandembu kobabí.
 s(7)-「戻る」完現 「再び」 s(7)-「渡す」完通 「ゾウ(2)」 「一方」
 ウサギは、今度は(網の)一方をゾウに渡しました。

sění kipiti kúdzema píkilanda.
 「彼自身(7)」 s(7)-「行く」完現 不定形「立つ」 「真ん中」
 彼自身は行って、真ん中に立ちました。

kitumbwíkí kupuha n̄fibi kwa anandembu na ananjwina.
 s(7)-「始める」完現 不定形「揺すぶる」 「網(3)」 属(17) 「ゾウ(2)」 等位 「ワニ(2)」
 ウサギは、網をゾウの方とワニの方へ揺すぶり始めました。

ananjwina kongo ahûta, na anandembu kongo ahûta.
 「ワニ(2)」 「ここ」 s(3pl)-「引っ張る」単通 等位 「ゾウ(2)」 「ここ」 s(3pl)-「引っ張る」単通
 そこでワニは引っ張りました。そしてゾウも引っ張りました。

ahufíní ánandembu ná ananjwina,
 s(3pl)-「引っ張り合う」完通 「ゾウ(2)」 等位 「ワニ(2)」
 ゾウもワニも引っ張り合いました。

kuhutana, kuhutana, kuhutana,
 不定形「引っ張り合う」
 引っ張り合って、引っ張り合って、引っ張り合って.....

ánandémbu kúhaguka, ánanjwina kúhaguka
 「ゾウ(2)」 不定形「こける」 「ワニ(2)」 不定形「こける」
 ゾウがこけました、ワニもこけました。

sánakápesa he salolâ hêla, kipití kwá ananjwina,
 「ウサギ(7)」 「時」 s(7)-「見る」単通 「それ」 s(7)-「行く」 属(17) 「ワニ(2)」
 それを見てウサギはワニのところへ行きました。

“mwananjwina, ne napwaga bô?
 「ワニ(1)」 「私」 s(1sg)-「言う」 「どのように」
 「ワニさん、私はなんて言いました？」

ne napwaga mí na makíli gíngi, mwê másôko”
 「私」 s(1sg)-「言う」単通 s(1sg)-be完現 随伴 「力(6)」 「多く(6)」 「君pl」 「少し」
 私には力がたくさんあって、君には力が少ししかないって、私は言ったでしょ。」

ananjwiná dzwapwaga,
 「ワニ(2)」 s(3sg)-「言う」単通
 ワニは言いました。

“sakâka, gwe gwabi ná makîli kumbetá ne”
 「確か」 「君 sg」 S(2sg)-be 完過 随伴 「力(6)」 「～以上に」 「私」
 「確かに。君は私以上に力持ちだよ。」

kibohí kabe kúdzendá kwa anandembu,
 s(7)-「出る」完現 「再び」 不定形「行く」 属(17) 「ゾウ(2)」
 ウサギは、今度はゾウのところへ行きました。

“mwanandembu, mpwaga bo?”
 「ゾウ(1)」 S(2pl)-「言う」単現 「どのように」
 「ゾウさん、あなたはなんて言いましたっけ？」

anándembu dzwapwaga,
 「ゾウ(2)」 S(3sg)-「言う」単過
 ゾウは言いました。

“sakâka, gúbi na makîli kumbetá ne”
 「確か」 S(2sg)-be 完現 随伴 「力(6)」 「～以上に」 「私」
 「確かに。君は私以上に力持ちだよ。」

kútumbúká ljobá lje hêli, ánandémbu na anaŋwina
 不定形「始まる」 「日(5)」 「その(5)」 「まさに」 「ゾウ(2)」 随伴 「ワニ(2)」
 それからというもの、ゾウとワニは、ウサギを大変怖がるようになりました。

bundzɔɔpa ŋgamâha anákapesa.
 S(3pl)-0(3sg)-「恐れる」完過 「非常に」 「ウサギ(2)」

マテンゴの民話の多くは、「知恵のある者が勝利する」という教訓で結ばれるが、その知恵のある者の代表としてしばしばウサギが用いられる。知恵のない人間や動物が、ずるがしこいウサギによってだまされる、というのが、典型的なマテンゴの民話である。「うまくだます」ということは、「かしこさ」の現われとして、肯定的に捉えられている。ここにあげた「ウサギとワニとゾウ」もそのような民話のひとつである。

本来、ウサギ、ゾウ、ワニは、それぞれ、7クラス、9クラス、5クラスに属する名詞であるが、物語の中ではこれらは擬人化され、1クラスあるいは2クラスのクラス接頭辞が付けられている。

民話「ウサギとカメレオン」

aba anakápesa na mwánalwĩa.

S(3pl)-be 完過 「ウサギ(2)」 等位 「カメレオン(1)」

ウサギとカメレオンがいました。

ánakápesá na mwánalwia bakomania ngáni.

「ウサギ(2)」 等位 「カメレオン(1)」 S(3pl)-「口論する」単過 「激しく」

ウサギとカメレオンは激しい言い争いをしました。

“mwênga, kúboka pámbãne kúdzenda kúhiká palápala,

「君 pl」 不定形「出発する」 「ここ」 不定形「行く」 不定形「到着する」 「あそこ」

「おまえさん、ここを出発してあそこまで行くとしたら、

dzwakálongó kúhiká na? ”

S(3sg)-「先行する」完過 不定形「到着する」 「誰」

どちらが先に到着するだろうね」

ánakápesa kupwágá,

「ウサギ(2)」 不定形「言う」

ウサギは言いました。

“nakáhiká ne. mwanakalwia mwê, m̀bí ni ímbelu? ”

S(1sg)-「到着する」移希 「私」 「カメレオン(1)」 「君 pl」 S(2pl)-be 完現 随伴 「能力(9)」

「僕が着くよ。カメレオン君、君には（早く走る）能力があるのかい？」

“henú tudzénda mwe, nga síndu”

「さあ」 S(1pl)-「行く」現希 「君 pl」 Neg 「物(7)」

「じゃあ、やってみようよ。問題ないよ。」

ánakápesa bâla atemí pikitêu,

「ウサギ(2)」 「その(2)」 S(3pl)-「座る」完過 「椅子に(16)」

ウサギは椅子に座りました。

sanálwia sêla satemí pulútengu.

「カメレオン(7)」 「その(7)」 S(7)-「座る」完過 「端(16)」

カメレオンはその側に座りました。

“henú tudzénda. dʒo dzwakálonguljá kúhiká pikitêu pâla

「さあ」 S(1pl)-「行く」現希 R(1) S(3sg)-「先行する」移希 不定「到着する」 「椅子に(16)」 「あの(16)」

「さあ、行こう。あの椅子に先に到着した者が

dʒwakápatá konikôla máhumbato ŋgagâgo. kokwá”
 S(3sg) - 「得る」 移希 「まさにその場所」 「贈り物(6)」 「すばらしい」 始める時の掛け声
 立派な賞品が手にするんだ。 よーいドン。」

he bóká pala ánakápesá bala kubutuká kudzendá kwikitêu
 「出発する」 「そこ(16)」 「ウサギ(2)」 「その(2)」 不定「走る」 不定「行く」 「椅子の所(17)」
 そこを出発して、ウサギは前方にある椅子に向かって走りました。

kúlŋgi kɔ kwabí kôla.
 「前方(17)」 R(17) S(17)-be 完過 「あそこ(17)」

henu kálwiá dʒólá kúpetá muŋkela gwá anakápesa mamáti.
 「カメレオン(12)」 「その(12)」 不定形「通る」 「しっぽに(18)」 属(3) 「ウサギ(2)」 「くつつく」 完現
 その時、カメレオンはやってきて、ウサギのしっぽにつかまりました。

ŋga béní kúlola. twin, twin, twin. twin,,
 Neg 「自身(2)」 不定形「気づく」
 ウサギは気づいていません。 ぴょんぴょんぴょん……

ánakápesa balá pala, kúhikí pikitêu.
 「ウサギ(2)」 「その(2)」 「あそこの(16)」 「到着する」 現完 「椅子に(16)」
 ウサギは椅子にたどり着きました。

ánakápesa ê bakatâma pikitêu sê pála, dʒô análwia,
 「ウサギ(2)」 S(2)-「座る」 移未 「椅子に(16)」 R(7) 「そこの(16)」 「それ(1)」 「カメレオン(2)」
 ウサギがそこにある椅子に座ろうとした時、カメレオンが言いました。

“bámbo, ŋpálá lê kundamílá? henú bɔ?
 掛け声 S(2pl)-「望む」 単現 疑問 不定形 0(1sg) 「座る AP」 「さて」 「どのように」
 「おい、君は僕の上に座りたいのかい？ え、どうなんだ？」

ŋpala kúndamila? na lê ŋtáki kúndamila?”
 S(2pl)-「望む」 単現 不定形 0(1sg) 「座る AP」 等位 疑問 S(2pl)-「～しかける」 完現
 君は僕の上に座りたいのかい？ 君は僕の上に座るつもりかい？」

ánakápesá “gwê kabe gwa ɲa?”
 「ウサギ(2)」 「君」 「再び」 繫辞(2sg) 「誰」
 ウサギは言いました「君はいったい誰だい？」

“kabe mwe ŋgítí umaji kúdzenda,
 「再び」 「君」 「確かに」 S(2pl)-「知る」 完現 不定形「行く」
 「もう一度聞くけど、君は走りかたをしってるはずなんだろう？」

né mwe nundóŋgulile. henú paní mwe”
 「私」 「君」 S(2pl)-0(3sg)-「先行する」完現 「今」 「ここ(16)」 「君pl」
 君より先に今ここに到着したのは僕だよ、おまえさん

bāndu “ñtwê mwé paní dʒwalɔŋgulí kúhiká
 「人々(2)」 「確実」 「君」 「ここ(16)」 S(3sg)-「先行する」完過 不定形「到着する」
 人々も言いました。「確かに君より先にここに到着したのはこのカメレオン君だ。

dʒo mwánakálwija hōdʒu,
 R(1) 「カメレオン(1)」 「この(1)」

mwe ñhíká mupúma, ñtákiá kúntamila,
 「君pl」 S(2pl)-「着く」 「後ろ(18)」 S(2pl)-「～しかける」単現 不定「彼の上に座る」
 君は後から到着したよ。そして君はカメレオン君の上に座ろうとしたのさ。

ádzi kúkaná ná mwindamí. nɔŋgulí kútamá pane.”
 ? 不定形「拒否する」 随伴 「仲間(1)」 S(1sg)-「先行する」完現 不定形「座る」 「ここ(16)」
 それを君の仲間が『僕がここに先に座っているんだ』と止めたんだよ。」

ánakápesa babi na kábe malangú gabu pāŋgi másóku.
 「ウサギ(2)」 S(2pl)-be 完過 随伴 「再び」 「知恵(6)」 「彼の(6)」 「おそらく」 「少し(6)」
 おそらくウサギはあまり賢くありませんでした。

leka dʒwakɔŋgá análwija,
 肯定 S(3sg)-「だます」単過 「カメレオン(2)」
 そう、カメレオンはだましました。

mwěni nga kúmaná kúdzenda, ná dʒwɔmbi malangú gwáke.
 「彼自身(2)」 Neg 不定形「知る」 不定形「行く」 等位 「彼」 「知恵(6)」 「彼の(6)」
 彼自身は走りかたを知りませんでした。でも彼には知恵がありました。

ná kɔmbí káhomu ké kadʒɔmwiké papâ hēnu.
 等位 「自身(12)」 「小話(12)」 「その(12)」 S(12)-「終わる」完現 「ここ(16)」 「今」
 さあ、この短いお話自体も、ここでおしまいです。

マテンゴの民話の中では、ウサギは常に知恵のある者として描かれるが、これはめずらしくウサギの方がだまされる話である。物語の中で「ずるい者」を表わす場合に7クラスの接頭辞をつけることがあるが、ここでも本来は9クラスに属するカメレオンが7クラスで現れている。

しりとりに詩

gwê gwa nâ ?

「君」 繫辞(2sg) 「誰」

あなたはだれ？

né na háláta

「私」 繫辞(1sg) 「ハラタ(人名)」

私はハラタという者です

né na hálata, nalema ngonda gwa máhilo

S(1sg)-「耕す」単過 「畑(3)」 属(3) 「マヒロ(地名)」

私, ハラタは, マヒロにある畑を耕しました

ngonda gwa máhilo, ulehí gwê nalili ndéka

「シコクピエ(14)」 「その(14)」 S(1sg)-「食べる」完過 Neg.

マヒロにある畑では, 私はシコクピエを決して食べませんでした

nalili ndéka, alja mweni kápelámendi

S(3pl)-「食べる」単過 「自身(3sg)」 「カペラメンディ(人名)」

私は決して食べませんでした, カペラメンディ氏は食べていました

kápelámendi, ntamí npendé kápendi

S(3sg)-「座る」完現 S(3sg)-「曲げる」完現 「小さな弓(12)」

カペラメンディ氏は, 小さな弓を引きました

npende kápendi, na kakóme ngókú dza tíndu

等位 不定形「～で殺す」 「ニワトリ(9)」 属(9) 「ティンドゥ(人名)」

小さい弓, これでティンドゥ氏のニワトリを殺しました

ngókú dza tíndu, dzabutuká londondú pahi

S(9)-「走る」単過 「バタバタと」 「下(16)」

ティンドゥ氏のニワトリは, ばたばたと下の方へ逃げていきました

londondú pahi, kuhíka kwa malíba kúlosi

不定形「到着する」 属(17) 「池(6)」 「川のあたり(17)」

ばたばたと下のほうへ逃げて, 川の側にある池に着きました

kwa malíba kúlosi, kúdziketani ndembú dzidzémi

不定形 O(9)-「出会う」 「ゾウ(9)」 S(9)-「立つ」現接

川の側にある池では, 立ち止まっているゾウに出会いました

ndembú dzidzémi, dzakaliá băna mátimba
 S(9)-O(2)-「食べさせる」単過 「子供(2)」 「メイズの殻(6)」
 立ち止まっているゾウは、子供にメイズの殻を食べさせていました

băná matímbá, dzikóngiti ngóbú dzú lubondi
 S(9)-「巻く」完現 「服(9)」 属(9) 「新芽(11)」
 メイズの殻を食べた子供は、新芽のできた服を身にまといました

ngobu dzú lubondi, gukanita kúdzopa păpu
 S(2sg)-「拒否する」単現 不定形「受け取る」 「その時」
 新芽のできた服、あなたはその時それを受け取るのを断りました

kúdzopa păpu, twakahongé mbómba kábalika
 S(1pl)-「誘惑する」仮 「娘(1)」 「カバリーカ(人名=花が咲く)」
 その時受け取ってあれば、我々は花の娘カバリーナを引っかけることができたのに

mbómba kábalika, abalakí patúmbá píhi
 S(2pl)-「咲く」完過 「人の住んでいないところ(16)」 「向こう岸(16)」
 花の娘カバリーナは、向こう岸の人の住んでいないところで咲いています

マテング語には、いろいろな「遊び歌」と共に、メロディーのつかない「ことば遊び」が存在する。上記のものは後者である。ここでは歌や民話と区別するために「詩」と呼んだ。それぞれの文が、先行する文の最後の句を受けて始まっており、「しりとり」のように続いている。